

虱の移るのの身体が痒くるる故直に分り木がコレラの
 傳染とのい少もかりませんせるま此病の傳染と直に
 腹が下痢するもるく傳染りてより二日も三日もるで嘔吐下痢と
 まる者もなりあるは先づ愛は虎列を郎といふ人が何れうで
 コレラ病と引受て来て彼令本町の熱雪隠へ送入てコレくウシコと
 たる其の中は流へ大坂の人が送入と直はコレラが傳染る丈う
 越後の人が此雪隠へ送入て又コレラと引受ると又其人の出は流へ
 東京の人が送入て引受る扱此へ入るが充分コレラと引受て流へ
 自宅へ帰り我家の雪隠へ入る及むは用足しは出れを
 治川市市市坂のきくひなく（鬼降などいれたる）増方我
 かけおびてコレラの氣のなるウシコとあるはさるやあるはサアと
 うう大なるふりう三人の者うう五人へ傳染り又より十人百人千人
 へもうつり愛うきはりのうて急に傳染り易き此の
 病氣はあのかかり易く分り易く必らずに食物飲物等より氣を
 付て天をの壽となれちあ人といふもの小石川はなる

此語燒親父

○緑礬葉種屋より二十五日、二葉目を入、是より混合せ、定に
 葱以白ひのち、処々添（大、便と）さ、毎よりさくべし。掃漏、多人、教布、其

思ふに日をも思ひとあつるささぐひ色

○又解禁之而問一水一斗と入世をよく洗和せしを要し奥ひのきる如く生れたるまもよ
○食おいて消化のよめが空しく中より急急類をぞい成夫からい新鮮い物とわづるが空しく

[illegible]

御届明治三年八月 日

川石水道所三十九番地
馬作出版力藤庄助

虎列刺病は伝染なし易きわけ ㊦6-3145-117

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library